

ドクターあかしの

からだのはなし(1)



江田クリニック院長
江田 証 先生

お医者さんが教えてくれないこと

江田博士が好評を博したJAしもつけ一年連載の続編を再開いたします。

このコラムを読むと、①お医者さんが診察室でなかなか教えてくれないことがわかる ②結果として健康で長生きできる ③最終的には、人生を幸福に楽しむことができるようになる、周りの人や社会まで幸せになれる、ということを目標に連載していきます。私のミッション(使命)は、「患者さんを治療することを通して、未来を育み、家族の絆を強め、社会に貢献すること」です。「信じる処、自ずと道は開かれる」。

「えっ、大腸癌だったんですか？ 症状は全然なかったのに……」。これが、大腸内視鏡を受けて癌が見つかった方の第一声であることが多いです。そうです。大腸癌は、癌ができてから症状が出るまでの時間が長い癌だと言えるのです。大腸癌が大きくなって、腸閉塞になったり、症状が出てからだと進行してきます。従って、「見つけようとして見つけないと早期には見つからない癌」です。早期であれば、当クリニックで内視鏡で癌が取りきれれています。

大腸癌が増えています。日本人の癌死亡率で最も多いのが、胃癌、次が肺癌、次が大腸癌です。胃腸の癌で亡くなる日本人が多いのです。

では、どういう人が危ないのか。①大腸癌は50歳から急に増える ②血縁に大腸癌の方がいる ③野菜を食べない運動不足の人、赤味の肉やアルコール、タバコが好きな人、などは特に

要注意。

当院に通院している患者さんは、必ず年一回の便潜血検査を受けます。これにより大腸癌の死亡率が33%減少することが統計上分かっています。また、大腸のポリープを定期的に取ってポリープのない腸(コロン)、すなわち、クリン・コロンにしておくことで大腸癌になる率が76〜90%下げることができる、と統計上分かっています。このような医療を通じて、私たちは大腸癌をこの地域から減らそうと頑張っているわけです。

大腸の内視鏡挿入法は、進化しています。私は軸保持短縮法という苦痛の少ない新しい挿入法で検査を行っています。これまで検査を受けた人は、前回の検査よりも楽だった、思ったより大腸の検査は大変でなかった、とおっしゃいます。内視鏡に関しては、「病院を選ぶのではなくて医師を選ぶ」、がこれからの患者学の鉄則ですね。

「プロフィール」

江田 証 医学博士。自治医科大学大学院卒。

自治医科大学消化器内科、東京虎の門病院、下都賀総合病院等を経て江田クリニックを開院。日本内視鏡学会認定専門医。日本消化器病学会認定専門医。日本消化器病学会奨励賞などの受賞多数。



愛すべきふるさとのために

胃がん・大腸がん検診

JAしもつけ誌

「ドクターマロニエの体のはなし」

でおなじみ

内科・消化器科・循環器科・呼吸器科・アレルギー科・人間ドッグ

江田クリニック

自治医科大学医学博士

日本消化器病学会専門医/日本内視鏡学会専門医

院長 江田 証

岩舟町小野寺2575-7

<http://www.cc9.ne.jp/^edaclinic/>

TEL. 0282-57-1234